

ばんぐみ  
～・～番組～・～

6月19日(月)午後1時開演  
仙台市立長命ヶ丘中学校

- 一、オープニング(囃子)
- 一、ごあいさつ 鶴澤 光
- 一、狂言 柿山伏
- シテ 山伏 野村万之丞
- アド 畑主 野村拳之介
- 一、狂言お話 河野 佑紀
- 一、能の謡を謡ってみよう 鶴澤 光
- 一、半能 敦盛
- シテ 平 敦盛 観世 淳夫
- ワキ 蓮生法師 大日方 寛
- 笛 藤田 貴寛
- 小鼓 飯田 清一
- 大鼓 亀井 洋佑
- 地謡 馬野 正基
- 鶴澤 久
- ながやま 桂三
- たにもと 健吾
- 谷本 健吾
- 鶴澤 光
- こばやかわやすき 小早川 泰輝
- 後見 観世鏡之丞
- 安藤 貴康

一、質問コーナー

6月20日(火)午後1時45分開演  
遊佐町立遊佐小学校

- 一、オープニング(囃子)
- 一、ごあいさつ 安藤 貴康
- 一、狂言 柿山伏
- シテ 山伏 野村万之丞
- アド 畑主 野村拳之介
- 一、狂言お話 河野 佑紀
- 一、能の謡を謡ってみよう 安藤 貴康
- 一、半能 敦盛
- シテ 平 敦盛 観世鏡之丞
- ワキ 蓮生法師 大日方 寛
- 笛 藤田 貴寛
- 小鼓 飯田 清一
- 大鼓 亀井 洋佑
- 地謡 鶴澤 久
- 馬野 正基
- 観世 淳夫
- ながやま 桂三
- 長山 桂三
- 安藤 貴康
- こばやかわやすき 小早川 泰輝
- 後見 谷本 健吾
- 鶴澤 光

一、質問コーナー

鏡仙会 (てっせんかい)

鏡仙会は、江戸時代後期の能楽シテ方観世流宗家十五世観世左近元章のときに分家した、観世鏡之丞家を中心とした演能団体で、東京を中心に活動しています。地謡をはじめ、ワキ方、囃子方、狂言方の全ての役を大切にすることで密度の高い舞台を実現を目指し、現代に生きる演能活動を続けています。

れいわ ねんど がっこうじゅんかいこうえんじぎょう  
令和5年度 学校巡回公演事業

こうえきしゃだんほうじん てっせんかい  
〈公益社団法人 鏡仙会〉

のうがくかんしょうきょうしつ  
能楽鑑賞教室



がっこうじゅんかいこうえんじぎょう  
「学校巡回公演事業」

小学校・中学校等において文化芸術団体による実演団体の実演芸術の巡回公演を行います。子供たちが質の高い文化芸術を鑑賞・体験する機会を確保するとともに、子供たちの豊かな創造力・想像力や、思考力、コミュニケーション能力などを養い、将来の芸術家や観客層を育成し、優れた文化芸術の創造に資することを目的としています。

ワークショップでは、子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。

また、実演においては、子供たちが参加できる工夫を行います。



ぶたいげいじゅつどうそうごうしえんじぎょう がっこうじゅんかいこうえん  
舞台芸術等総合支援事業 (学校巡回公演)

どくりつぎょうせいほうじん にほんげいじゅつぶんかしんこうかい  
独立行政法人 日本芸術文化振興会



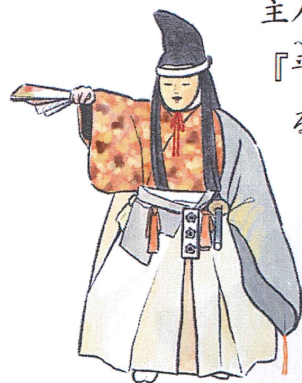
きょうげん かきやまぶし  
狂言「柿山伏」みどころ

柿を盗み食いた罪をどうにか隠そうする姿が笑いを誘う山伏狂言。柿を食べる仕草や、動物の鳴き声の真似など、思わず真似したくなるような狂言独特の表現が随所に見られます。

登場人物の行動や心理を笑うのみに留まらない、人間の良いところも悪いところも愛らしく描く狂言の本質を味わって下さい。



のう あつもり  
能「敦盛」みどころ



主人公の平敦盛は、一ノ谷の合戦にて十六歳の若さで命を落とした武将で、『平家物語』にその最期が伝えられています。能「敦盛」はその後日談ともいえる内容で、敦盛を殺した後に出家した熊谷直実(蓮生法師)の視点で物語が進み、詩歌管絃を愛した敦盛の苦悩が描かれています。

生前、戦乱の世で敵同士だった熊谷直実と平敦盛。敦盛の死後、二人は仏縁により真実の友となります。戦争と平和、敵と友、現世と死後、「敦盛」は現代に生きる私たちにも通じる普遍的なテーマを描いており、能の名作として頷ける一曲です。

今回上演する後場では、蓮生法師の弔いに感謝した敦盛が、武将の姿で現れて生前の様子を語る、という能一曲の後半部分をご覧頂きます。皆さんと近い年齢である敦盛の生き様を通して、正解のない問題について考えてみて下さい。

附祝言とは、最後の演目が終わった後におめでたい内容の短い謡を誦することです。この「高砂」の謡は、代表的な附祝言の一節です。大きな声と一緒に誦してみましょう！



附祝言を一緒に誦してみよう

千秋楽は民を撫で  
萬歳楽には命を延ぶ  
相生の松風  
颯々乃声ぞ 楽しむ  
颯々乃声ぞ 楽しむ

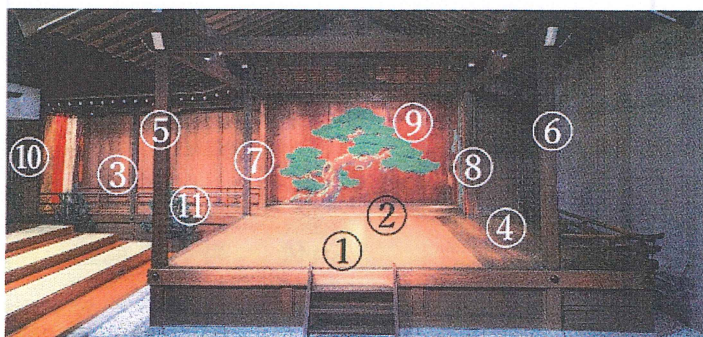
現代語訳

千秋楽という雅楽を奏しては民を慈しみ、萬歳楽を舞ってひるがえす音、相生の松へ吹き渡る風音。いずれも颯爽と声を立て、満ち足りた楽しみに浸るのである。

……能「高砂」の一節で、クライマックスに和歌の神様である住吉明神が、平和な御代、栄えゆく世の中を祝福する様子を表しています。

のうぶたい  
～能舞台～

能・狂言を演じるためにつくられた舞台です。以前はお寺や神社の境内などの屋外に建てられていましたが、明治以降に建てられた殆どの舞台は建物の中に建てられています。舞台上にある空間や柱にはそれぞれ名前がついています。覚えてみましょう。



- ① 本舞台
  - ② 後座(横板)
  - ③ 橋掛り
  - ④ 地謡座
  - ⑤ 目付柱
  - ⑥ ワキ柱
  - ⑦ シテ柱
  - ⑧ 笛柱
  - ⑨ 鏡板
  - ⑩ 揚幕
  - ⑪ 一ノ松
  - 二ノ松
  - 三ノ松
- 東京南青山：鏡仙会能楽研究所内舞台

のうがくし  
～能楽師～

能楽師には、大きく分けてシテ方、ワキ方、狂言方、囃子方という、4つのグループがあります。能楽師はどれか一つのグループに属し、一生をかけて芸を修行します。能・狂言の舞台上には物語の登場人物を演じる能楽師のほか、下の表にあるような役割を担う能楽師が出演します。誰がどんなことをしているか注目しながら鑑賞してみましょう。

はんのう あつもり  
半能 敦盛 ※「半能」…能一曲の後半部分を上演する演能形式

グループ	役	どんなことをしているのでしょうか
シテ方	シテ(平敦盛)	主人公。能面、装束を身に付けて登場します。
ワキ方	ワキ(蓮生法師)	シテの相手役。装束を身に付けて登場します。
はやしかた 囃子方	ふえ こづつみ 小鼓 おおつづみ 大鼓	笛、小鼓、大鼓、太鼓で編成され、四拍子と呼びます。物語の世界や情景を幅広く表現します。それぞれの「音」と「掛け声」にも注目してみましょう。今回の敦盛のように、太鼓が入らない曲目もあります。紋付袴で登場します。
シテ方	じうたい 地謡	地謡座に座り、情景や登場人物の気持ちを謡います。後列の中央に座っているのが地頭(リーダー)です。紋付袴で登場します。
〃	こうけん 後見	舞台左後方に座っていて、シテの装束を直したり、小道具の受け渡しをしたり、万が一シテに事故があったときには代わりに演じたりと、舞台が無事進行するように見届ける役割をします。紋付袴で登場します。

※曲目によっては狂言方による「アイ」がある場合や、さらに登場人物が増える場合があります。またシテが能面をつけられない曲目もあります。

きょうげん かきやまぶし  
狂言 柿山伏

狂言方	シテ(山伏)	主人公。装束を身に付けて登場します。
〃	アド(畑主)	シテの相手役。装束を身に付けて登場します。
〃	こうけん 後見	能と同じく、舞台が無事進行するように見届ける役割をします。

※曲目によっては狂言にも地謡や囃子方が登場する場合があります。またシテやアドが狂言面をつける曲目もあります。